

市長記者会見記録

日時：2020年8月4日（火）14時00分～14時31分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

《市政一般》

【司会】 ただいまから定例市長記者会見を始めます。

なお、本日から手話通訳を入れておりますので、よろしくお願いいたします。

本日の議題は市政一般となっております。

早速質疑に入らせていただきます。進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

《新型コロナウイルス感染症関連について》

【幹事社】 今月幹事社です。よろしくお願いいたします。

隣の東京都、コロナウイルスの患者がかなり爆発的に増えております。先日は400人台というのも出ました。川崎市内での病床数などの現状、それから、市民への呼びかけなど、県境をまたがないようになどの呼びかけなどがもしございましたら、お聞かせください。

【市長】 はい。東京都、言われたとおり増えていきますし、本市でも一定数というのがずっと連日出ているということなので、しっかり注視をしているということでありますけれども、重要なのは、今おっしゃっていただいたとおり、医療体制の準備というのをしっかりやっていくということで、現在、120床、マックスでやると270床まで用意できるという準備はしていますけれども、今、120床は稼働できる体制になっていて、現在のところ、入院者、重症者というのが限られておりますので、それほどコロナの患者さんと、それから、一般の医療についても、現状のところでは大丈夫だと、逼迫（ひっぱく）している状況にはございません。

一方で、少し懸念しておりますのは、都内での患者さんが増えて、都内の病床が逼迫してくると、その影響というのはやっぱり周辺自治体にも及ぶというのは、第1波のときもそうでしたけれども、影響は出てくると思いますので、その辺りはよく見ておかなくちゃいけないと思いますし、情報は密に取っております。

【幹事社】 移動の自粛要請などのお考えはございますでしょうか。

【市長】 いや、すみません。特にそういったものを出すという状況にはないと思いますが、この市内での発生状況について、健安研の岡部所長にも、毎週、状況を評価してもらっていますけれども、やはり市内でのクラスターというか、感染者の例を見ますと、やはり3密のところで発生しているという状況ですので、そこをしっかりと回避していただく行動をとっていただくことが重要だと思っています。明らかに危ないと言われているような施設だとか、場所というところを避けると、しっかり避けていく、あるいは時間帯をずらすとかという、そういう行動を求めていくというのは今までどおり変更ございません。

【幹事社】 ありがとうございます。

また、これから夏休みシーズンに入ります。夏休みの過ごし方について、もし市民に何か伝えたいことなどございましたら、お聞かせください。

【市長】 そうですね。繰り返しになって恐縮ですけど、人混みを避けるとか、ここは危険だと言われていたところには近寄らないとかということをして、静かに生活していただく、休みを過ごしていただくということが重要かなと思っていますので、そういう呼びかけをさせていただきたいと思います。

【幹事社】 ありがとうございます。

《市民ミュージアム関連について》

【幹事社】 幹事社です。よろしくお願ひします。

【市長】 はい。お願ひします。

【幹事社】 先月30日に行われた市民ミュージアムの公開についてお伺ひしたいと思います。初めての公開ということで、興味深く拝見しましたし、現場の御苦勞もうかがえて、準備いただいたことには感謝申し上げます。

一方、非常に残念な出来事も幾つかありまして、まず冒頭、市側から、放送掲載前に内容を確認させてほしいと求める発言がありました。現場で撤回されましたけれども、こういった発言が市側から出てくること自体が問題だと考えています。これについては、報道の自由の侵害ですし、編集権の介入と取られかねない発言であります。

また、撤回したにもかかわらず、公開終了後には、ムービー各社に対して一部の映像を使わないように求める個別の連絡がありました。これに対しても抗議をして、撤回をしていただきましたけれども、これは市側にして誤りだったということで連絡がありました。これも報道に対する過度の規制だと考えております。個別に制限、圧力をかけるということ自体が問題だと思いますけれども、報道公開という、こういった公式の場をめぐって、こういった発言が連発されること自体が市民ミュージアム、

市民文化局だけの問題ではなくて、市全体の報道に対する体制、姿勢として、これを良しとしていると取られかねないと思っています。

これについて、一連の市の対応について問題意識はないのか、市長にお伺いしたいと思います。

【市長】 まず、そういう対応があったということを報告を受けまして、今、御指摘いただいたとおり、大変不手際が続いたということで、大変申し訳なく思っておりますし、御指摘いただいたとおり、検閲とも取られかねないような、そういったことになってしまったことに、改めて申し訳なく思っておりますし、そういったことが今後はないように、しっかりと指導していきたいと思っています。

報道姿勢として、市の姿勢として、そのようなことは思っておりませんし、これから、市民ミュージアムのこともそうですけれども、市民の皆様には正確な情報をしっかりとお届けして、理解を求めていくということはとても大切なことだと思いますので、これからは報道機関の皆様にはしっかりとその点をお伝えいただくということは大切なことだと思いますので、このようなことが繰り返されないように、改めてまいりたいと、こういうふうに思っております。改めて誠に申し訳ありませんでした。

【幹事社】 御認識をいただいているということはあると思いますが、改善したいということで、具体的にはどのように改善していくのか教えていただけますでしょうか。

【市長】 今回、市民文化局のところにはしっかりと、対応のどこが間違っているのかということを私なりにしっかりと伝えたということと同時に、これはおっしゃるように、市民文化局だけの話ではないと思いますので、これは定例局長会議ほか、関係者が集まったところで改めてこのことを共有して、こういったことがないように努めてまいりたいと思っています。

【幹事社】 共有をいただいたということなんですけれども、これまでも市民ミュージアムの情報公開については、個別、また記者クラブを通してでも市側と議論が続いているところであります。そもそも市民の共有財産である被災した収蔵品の状況、名前などが十分に公開されていないことですか、あるいは被災直後から現場の公開を求めてきたにもかかわらず、このタイミングでやっと公開されたということについても問題だと思いますし、また、問合せに対して虚偽の回答であるとか、ある資料をないと回答してきたりですか、ちょっと不誠実と捉えてしまうような対応が続いていることもずっと問題になっているところであります。

情報公開の基準についても、十分整理されているとは伺っていませんし、その他の点についても説明が不十分で、恣意的に運用されていると捉えかねない説明が

多々散見されるところであります。報道対応が市民に対する説明全てではないと思いますが、最も基本的な要素の一つである報道対応がこの状況であるということ、市民に十分説明がこれで果たせるのかというところが非常に疑問であります。市長として御見解をお伺いしたいのと、今後の改善についてお伺いしたいと思います。

【市長】　そうですね。今回の対応だけではなく、資料の出し方ということも、誤解を招く発言だとか、あるいは少し曖昧な解釈で行われてたりということというのがこれまでもありました。今後のこの修復作業ですとか、あるいは今後の市民ミュージアムの在り方というふうなことを市民の皆さんに伝えていくという意味では、とにかく正確さというものが大事ですし、何を根拠にということというのが常に大事なことだと思っていますので、改めて気を引き締めてやってまいりたいと思っています。

【幹事社】　先ほどの質問でも申し上げたとおり、市民文化局だけではなくて、これまでもそういった市側の不誠実な対応というのをこれまで取材していても感じてきたところでもあります。そういったところについて、改めて改善していただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

【市長】　それは市全般のことについてでしょうか。

【幹事社】　そうですね。回答について、例えばはぐらかすであるとか、誤った回答をしてくるということも多々あったりするわけで。

【市長】　ちょっと個別具体的な話ではありませんけれども、不誠実な対応にならないように、これからしっかり気をつけたいと思いますが、ちょっと過去のものについて、どれがというふうなことが示されない中で、市全体のこれまでの対応が不誠実だということになるとちょっと。

【幹事社】　個々の取材の中でそういったことも、市民文化局が中心ですけれども、ありまして。

【市長】　しっかりと改めるべきところは改めてまいりたいと思います。

【幹事社】　では、各社さん、お願いします。

【記者】　すみません。

今のお話で、市長なりに、どこが間違っているのか、私なりに伝えたというふうにおっしゃったんですけど、何がどういうことをお伝えになられたのかということをお伺いできるでしょうか。

【市長】　例えばですけれども、御紙の記事になっておりましたけれども、あれ、何と言いましたかね。

【記者】　昭和新山の件ですか。

【市長】　そうですね。ちょっとお待ちください。これこそ正確に言わなくちゃいけないことなんです。例えば職員が気が回らなかったという表現というのは、これは本当なのかという話にしても、気が回らなかったわけではないんだと。実際は勘違いしていたんですね。という話ですとか、何となくその場で対応してしまって発していることから、正確性を欠いている、あるいは誤解を招いてしまうとか、あるいは事実とちょっと違うといったことというのは、これはその場の対応と、私自身も全くないとは言いませんけれども、しかし、曖昧な部分はしっかり、ちょっと確認しますというふうに一拍置いた上で、しっかり確認して正確な情報をお伝えするという姿勢だと。もろもろ少し細かいこともお話ししましたが、とにかく事実を正確にお伝えするということが何よりも大事なことでありますので、これについては、担当のほうにもしっかりと伝えました。

【記者】　もうちょっと補足をすると、事実を正確にというのはもちろん大事なことです、それに加えて素早くというところがとても難しい、これまでいろいろやり取りをしていて、とても、何でこれがその場で回答いただけないことが、いただけないのかなというふうなことも、これまで何度もありました。もちろん取材に対して間違ったこと、事実と違う回答をされるということは論外なんですけれども、何でこれが、これを聞いても確認します、それは誰に確認するんですか、担当課以外のところに問い合わせる。恐らく指定管理者なんでしょうけれども、それはもう担当課でなぜ自前で把握できていないのかというようなことも、これまで何度もありました。口頭でのやり取りというのが先ほども誤解を招くというようなこともおっしゃいましたけれども、私も途中から、もう口頭でのやり取りだと、言った、言わないになるのが嫌なので、書面でのやり取りということもやった上で、でも、実際、そもそも事実関係自体が違っていたというようなこともありました。なので、市長の問題意識というもの以上に、恐らく取材している側は弊紙だけではなくて、各社とも相当に、そこまではまだギャップがあるようにも感じているので、もう一度、ちょっとこの市民ミュージアム、市民文化振興室の対応についてはもう一段、ねじを巻き直していただいたほうがいいかと思いますが、いかがでしょう。

【市長】　しっかり御指摘を受け止めさせていただきたいと思えますし、私も課題を感じておりますので、要は、昨日もその話をしたんですが、どこが自分たちの責任範囲なのか、指定管理なのか、市なのか、そのことについてしっかりと担当として把握しておかなくちゃいけないということを、その自覚というものが需要ですし、その準備というものをしっかりと行うことということが必要だと思います。御指摘、しっか

りと受け止めさせていただきたいと思います。

【記者】 そんな中で、新しい在り方についても検討、文化芸術振興会議の部会が、初会合がありました。なかなか現状、被害の全容もまだ分かってないというような状況で、今後の方針について議論するというのもなかなか大変な作業だなというふうには思っているんですが、その中での被災の状況というものを逆に見せていくことで、国内でも例を見ない被災をしたミュージアムという見せ方もあるんじゃないかというような意見も、委員からは出ました。あの意見について、市長、どういうふうにお感じになられたか。

【市長】 私もそういう考え方はあるなと思います。これだけの被害を受けたということ、非常にマイナスなことでありますけれども、それをどう次に生かしていくかというのは、学識の方からも、そういう思考、考え方というのものもあるんじゃないかという御指摘をいただいたというふうに承知していますし、今後、有識者の中でもそういう議論がいろいろいただけるものだと思っていますし、その議論を少し見守りたいと思っています。

【記者】 そのために必要なのは、やはり正確な記録を適時、必要な、十分に残しておくことだと思います。それはもう修復が順次進んでいる状況ではありますけれども、どのような作品がどのような被災をして、どのような修復過程をたどったのかということは、できるだけ精細な画像でやはり記録しておかないと、もうなくなってしまうので、その辺は担当課とはどんな指示なり、やり取りが今までありますか。

【市長】 この修復の応急処置のところというのは、指定管理者のところが責任になっています。なんですけど、一連のところをどこがどういう記録を取って、最後、どういう形にしているのをしっかり、もう少し明確にしていくと。今、仕分としてはなっておりますけれども、今御指摘のように、どうそれをつなげていくのとかというところまで含めるともう少し議論が必要かなとは思っています。

《「パーセント フォー アート」の検討状況について》

【記者】 すいません。もう最後にしますけど、ちょっと話、ずれるんですが、市長選のときの公約で、パーセント・フォー・アートを検討されるということがあったと思います。今、新型コロナでの事情もこんなですし、台風のこともありました。あと、今任期はまだ1年ちょっとありますけれども、あれの検討状況というか、どういうふうに今お考えか、お考えをお聞かせください。

【市長】 そうですね。パーセント・フォー・アートの考え方についても、学識の方にも少し意見交換をさせていただいたこともありますが、なかなか状況的にも、それ

から、どうやって具体的に詳細に落としていくかというのは、課題が非常に大き過ぎて、現時点で何かこういうふうなものだということまでやっていくというところに至っていないというのが今の現状です。

【記者】 検討はしてみたけれども、難しいという状況なのか、それとも、まだその前段階ということなのか、それで言うとどっちなのでしょう。

【市長】 いわゆるパーセント・フォー・アートというものの、そのものというのは難しいというふうに、私自身は思っています。

【記者】 なるほど。それはやはり予算的な関係だったりするのか、あのかの公約の1つではあったので。

【市長】 はい。

【記者】 なかなか財政的にも厳しいことは、想像はつくんですけども、理由として、難しいと今、判断されるもの、ことで、理由を説明いただけると。

【市長】 1つは、公共建築物を造るときに、1%なのか、一定割合というふうなのを1つとか、象徴的なものを造るとかという、そういうのがありますけれども、果たしてそれが今の時代に沿うのかとか、あるいは建築費が今、非常に高騰している、この段階で、さらにそこに、アートに回していくことというのが適切なのかということ、少し幾つかの論点ありましたけれども、いずれにしても、あまり適切ではないなと思っています。ですから、そのまま公約の私が当初イメージしていたものと現時点では相当な、私の認識自体も違っておりますし、現状もかなり違うんだろうと思っています。その説明というのは、しかるべきタイミングでちゃんとお話ししなければならないなと思っています。

【記者】 現状というのは社会情勢なり、建築費のことだということですか。

【市長】 そうですね。はい。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

《川崎じもと応援券について》

【記者】 すいません。じもと応援券なんですけれども、2次募集の現状はまだ、どれぐらい、今、出ているんでしょうか。

【市長】 はい。2次募集の、昨日の時点でありますけれども、購入希望冊数というのが13万1,536冊ということで、1次募集との合算でいきますと38万7,867冊となっております。

【記者】 まだ半分に行っていない状況だと思うんですけど、今後というか、さらに先はどうされるんですか。

【市長】 まだ2次募集の途中ですので。

【記者】 そうですね。

【市長】 少し今後のことはまた改めて考えたいと思います。

【記者】 今まで出たと思うんですけれども、やはりどんどん日にちは経っていているわけで、使える時期をやっぱり延ばすのが購入する意欲を訴えるためにもいいんじゃないかと思うんですけど、その辺の使い方のちょっと変更というのも考えられていらっしゃいますか。

【市長】 そういう御意見もいろいろな方からいただいておりますので、そういう御意見もあるということは承知をしています。今後について、期間をどうするのか、あるいは2次募集以降どうするのかというのは、今後の検討にさせていただきたいと思っております。

【記者】 はい。分かりました。ありがとうございます。

【記者】 度々で申し訳ありません。コロナの関係で、7月、1か月の感染者の数というのは恐らく、私の目での計算ですけど、2月から6月末までの患者の数と、市内の状況ですけど、恐らく同じぐらいで、やはりここ数日の首都圏全体での増え方というのはかなり爆発的な状況だと思います。これまでいろいろな、先ほども3密の状況で感染される方が多いということもおっしゃっておられてはいましたが、現状、市内の今の感染者がこれだけ、7月に入ってとても増えていること、こういう啓発を呼びかけてきたにもかかわらず、やっぱり伸びが止まらないという状況について、今どういうふうに捉えていらっしゃいますか。何でかと捉えていらっしゃいますでしょうか。

【市長】 なぜかと言えば、人が移動しているからということにはほかならないと思います。一定の経済活動、社会活動をしていくと、それなりに増えるという、これは間違いないと思いますので、当初から、専門家から言わせると、どれが、どの辺りが本当に許容のレベルなのかというのは、それはいろいろな議論があると思いますけれども、経済活動的な社会活動を止めてしまえば、それは収束するし、どこまでが危ないのかとかというのは非常に言いづらい、言いにくいことだと思います。

よく2波だとかという話があるんですけども、2波というのは結果、終わってみて、あれが2波だったねということが分かるという話なので、あまり2波、2波というふうに断定しづらい。これは1波のまだ余波なのかもしれないしと、それは後から分かる話なので、やはり当初のとおり、対策のとおり、一定程度にとにかく封じ込めていこうと。薬だとかワクチンだとかできるまでは、こういったことを少し繰り返すということは想定されていた話なので、そういった意味で、みんなで気をつけよう

いう、生活習慣を変えていこうということを繰り返しやっていくしか、ある意味方法がないということだと思います。

【記者】 先日もG o T oトラベルが始まって、一方で、3密を避ける、新しい生活様式で、そのアクセルとブレーキ両方、同時に踏まれているというようなことを言う人もいらっしゃいます。その中で基礎自治体の首長としては、例えば緊急事態宣言だとか、自粛要請、要は権限のある形の自粛要請というものが市町村にあるべきなのか、市町村にもあったほうがいいのかというふうなお考えがあるのかどうかということをもとにちょっとお伺いしておきたいなと思います。

【市長】 それは全てがセットじゃないと、例えば財源だとか、権限だとかということというものの全てが、医療の体制もそうですし、そういったものが全てそろったときにとというのはある意味、政令都市ぐらいのレベルだと受け止められると思います。

一方で、権限だけ渡されて、財政的な措置がされないと、これは一番困るやり方で、そこはやるんだったらフルセットだと思いますし、フルセットで受けられる政令指定都市というのは、これは政令指定都市市長会の中でもいろいろな議論がありますけれども、受けられるという団体というのは相当多いかと思います。

【記者】 市長としては、受けられるものなら受けたいというお考えですか。

【市長】 フルセットでですか。

【記者】 フルセット。

【市長】 ちょっとそこはよく検証してみないと、なかなか一言で受けたいとか、受けられないとかというのは言いづらいなと思いますけど、ただ、明らかに県内市町村の中では、いや、川崎と横浜とは違うよと思っている自治体、市長さんたちはたくさんいらっしゃると思います。そこが神奈川県一律で果たしていいのというところに、むしろ疑問を持たれているのではないかなと、そういう感覚はありますね。

【記者】 なるほど。分かりました。ありがとうございます。

【市長】 はい。

【記者】 すみません。

市民ミュージアムなんですけれども、中を先日、収蔵庫の中等を見まして、大変厳しい状況、これから修復作業にしても、復旧して再開に向けてもまだまだ、何年かかるか分からないような状況にあるということで、市民の方はかなり不安に思っていると思うんですけれども、改めて市長として、今後の再開に向けての、市民に向けて、今どのような所感であるかということをお聞きしたいんですけれども。

【市長】 まだ今後の在り方について議論を始めたばかりですので、将来、私たちの

この川崎市、市民にとって求められている、あるいは誇るべき市民ミュージアムというのは一体どういうものなのかということを改めて考えていかなければならないタイミングだと思います。そういった意味で、有識者の方からも、若い世代の御意見をいただくべきだとか、あるいは一般市民にざっくり聞くのではなく、少しいろいろな工夫をするべきだとかという御意見をいただいていますから、そういった意味では、これからまさに議論が始まっていく、こういうふうに思っていて、いい議論を市民の皆さんからもいただきたいと思っていて、そういった点に努めていきたいと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 すみません、度々で。

【市長】 どうぞ。

【記者】 すごい根本的なことなんですけど、この市民ミュージアムは存続することを含めて検討している、廃止することも含め検討しているという認識でよかったですか。やめるという選択肢があるのかどうか。

【市長】 いろいろあると思いますが、実際にこれだけの収蔵品があって、これをしっかりと修復して、また見せていくというのは、これは川崎市にとってとても大事なことだと思います。ですから、そのタイミングがいつになるかというのはまだ明確に示すことはできないんですが、今まで国内でも非常に珍しい、美術館と博物館機能が一体化している施設という、そのものがないのかどうかということ、あるいはその場所でいいのかという場所の問題等々、様々な課題があるんで、そこを一つ一つ、クリアしていかなきゃいけないと思っています。

【記者】 何というか、今後の在り方ということを検討するということは、これは市民ミュージアムという機能、美術館機能、博物館機能というのは、川崎市としては持ち続けるのだということが前提になっているのか、それとも議論の趨勢（すうせい）によっては、例えばもうそういうものはやめて、収蔵品自体を例えばほかの美術館なりに譲るなりして清算するというのも視野の中にあるのかどうか。

【市長】 現時点で、市民ミュージアムを廃止するというふうなところに議論が行くかといったら、そうではないと思います。

【記者】 それはこの在り方、今後の在り方を検討するんだから、あることは前提で議論するということで。

【市長】 そうです。

【記者】 そこはそれ、よろしいですね。

【市長】 はい。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

【司会】 そのほか。

【記者】 先日の文教委員会を聞いていましたら、存続も含めてというふうに担当の方がちょっと答えていらっやって、場合によっては、ほかに譲ることもということもちょっと口にされていたように記憶しているんですけども、今の市長のおっしゃっていることとちょっとそこがあるなと思ったんですが、その辺、どうでしょうか。

【市長】 いや、いわゆる廃止もあり得るといような、その議論ではないと僕は思っています。それ前提ありきみたいな話になってしまうと。

【記者】 なるほど。

【市長】 非常におかしな話になる。

【記者】 ただ、存続も検討課題というのは、普通に聞いていたら、もちろんそれが前提ではないけど、場合によってはそこに行くこともあるという前提というか、覚悟で話されているのかなという印象を受けたんですけど、その辺はどうなんですか。

【市長】 廃止ということも……。

【記者】 廃止とはおっしゃっていなかった、存続も含め検討するというをおっしゃっていたと思います。存続も視野に入ってる。視野というか、選択肢の中には存続もということで、担当課の方は話されていたように聞きました。

【市長】 全くその、何というんでしょうか、この時点で非常に言い方が難しいんですけど、全く議論も、そっちの議論もないのかと、例えば御意見として、議会とかというので、そのことまで、最初からそもそもないですと、存続ありきなんですという、その中で議論してくださいという話でもないでしょうし、そういうレベル感の話だと思います。

【記者】 なるほど、分かりました。ありがとうございます。

【司会】 そのほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして、市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355